

西部パレット利用者連絡会ニュース

【発行】西部パレット利用者連絡会幹事会

【発行日】2011年5月25日 NO.11号

● 「東北とつながるカプロジェクト」始動 募金とブログ

3月19日の第8回西部パレット利用者連絡会全体会において、さまざまな市民活動を行っている団体の“連携”を生かし、大震災被災者への支援活動を進めるために、「東北とつながるカプロジェクト」の設置を決議しました。

その最初の取り組みとして、いち早く現地入りし支援活動を始めた認定NPO法人JENへの募金活動を3月の下旬に4日間行うなど、合計282,116円をJENに送りました。(詳しくは、前号、およびブログ参照)

「東北とつながるカプロジェクト」のブログを情報拠点とし、県西部地域からの「あるものリスト」をすることによって、被災地からの「必要な人・もの」とのマッチング活動を展開していきます。NPO諸団体が、全国レベルでの救援のネットワークをつくることは、「助け合い、支えあう」社会を築く上でとても有意義なことです。諸団体との積極的な情報交換によって迅速で適確な支援活動が可能となります。被災地への長期にわたる支援を続けるために、引き続き支援活動に関わる情報提供をお願いします。

「東北とつながるカプロジェクト」ブログ <http://tohoku-chikara.blogspot.com/>

● 第9回利用者連絡会・全体会を開催

4月21日に、全体会を開催しました。最初に、震災支援募金活動の報告がありました。

次に、浜松から震災現地入りして救援活動にあたった「トータルケアセンター」理事長の安間孝明さんから、現地での活動報告をして頂きました。リアルな現地の様子を聞いて気が引き締まるとともに、支えあって生きるということの大切さや心の交流の暖かさに触れ、元気をもらいました。「私たちが被災者になったとき」にも対処しようような「市民活動団体の連携の力」、「横のつながり」が重要であると感じるとともに、「東北とつながるカプロジェクト」に取り組むことの意義を改めて考えました。

続いて、県の県民生活課および、浜松市の「市民協働センター」の来賓の挨拶を頂きました。パレットの今後についての話し合いに関しては、「利用者連絡会」から2名参加して欲しいとの要請がありました。息の長い震災支援の活動を続けるためには、行政・市民団体・企業の協力と連携が必要である、との意見も出されました。

利用者から、印刷機やコピー機の利用方法などについて、「利用方法変更の一方的通告」について疑問が述べられ、「利用者と、利用者の利便性を大切にしたい」との意見が出されました。これに対して、これまでの「プリペイドカード」方式から「カード貸し出し」方式に移行するにあたって、指定管理者のパレットから説明がありました。(具体的方法などについては、パレット受付でご確認下さい)

● 利用者連絡会・幹事会で論議

5月11日に、幹事会を開催しました。パレットの今後についての県との話し合いには、「利用者連絡会代表」神田一男(第9条の会・浜松)と池谷雅子(「水俣」を子どもたちに伝えるネットワーク浜松)の2名が参加することになりました。もしも、都合で参加できないときには、幹事会から代替りの人が参加することとなりました。

「利用者連絡会」としては、市民活動のさらなる発展を基軸にして、行政と市民との、そして、県と市(西部地域)との協力・連携のあり方をさぐり、パレットのあり方を建設的に考えることが確認されました。

● 「西部地域交流プラザあり方検討会」始動

6月10日に、いよいよ第1回のパレットの今後についての話し合いが行われることになりました。「利用者連絡会」の他に、県の「くらし・環境部 県民生活局」(県民生活課)、指定管理者の「ボランティア支援ネットワーク・パレット」、浜松市をはじめとする西部各市の市民活動支援組織代表が参加します。当面、2ヶ月に1回のペースで開催したいとの意向が、県より示されています。第1回の議題は、(1)出席者の自己紹介、(2)西部地域交流プラザ・パレット設置経緯の説明、(3)意見交換等、となっています。

「利用者連絡会」全体会や幹事会で、「(パレット)あり方検討会」における論議の報告をし、相談しながら、県等との話し合いを進めていきたいと思っております。ザザシティでのパレットの存続を訴えた時の「利用者連絡会」の論議にふまえ、市民活動が重要視される将来を見据えて、「あり方検討会」の論議に参加しましょう。(文責 神田一男)